

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2025-102675
(P2025-102675A)

(43)公開日 令和7年7月8日(2025.7.8)

(51)国際特許分類
E 0 4 H 1/02 (2006.01)

F I
E 0 4 H 1/02

テーマコード (参考)
2 E 0 2 5

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全23頁)			
(21)出願番号	特願2024-205863(P2024-205863)	(71)出願人	307042385
(22)出願日	令和6年11月27日(2024.11.27)		ミサワホーム株式会社
(62)分割の表示	特願2023-219143(P2023-219143)の分割	(74)代理人	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 100090033
原出願日	令和5年12月26日(2023.12.26)		弁理士 荒船 博司
		(72)発明者	山下 登教
			東京都新宿区西新宿2丁目4番1号 ミサワホーム株式会社内
		Fターム (参考)	2E025 AA22

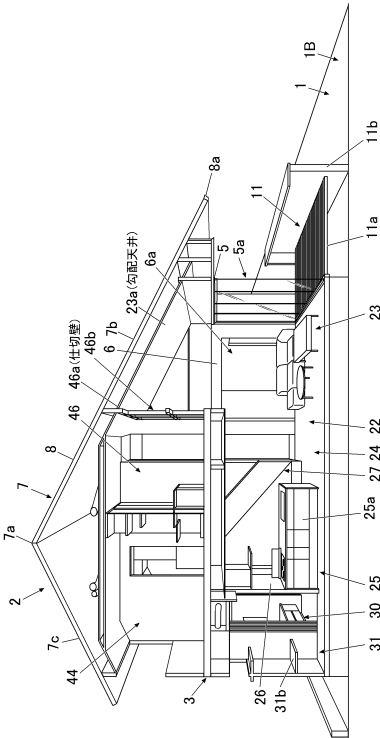
(54)【発明の名称】 住宅

(57)【要約】

【課題】環境性能の高い住まいを実現しつつ、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保する。

【解決手段】第一下階部屋23は、傾斜屋根7の直下に位置して傾斜屋根まで吹き抜けていて、第一下階部屋における屋外空間に隣接する外壁5には屋外側開口部5aが形成され、第二下階部屋24は、第一下階部屋と連続する空間として形成され、第一下階部屋と第二下階部屋との間は第一屋内側開口部とされ、上階部屋46は、第一下階部屋の上部空間に面する仕切壁46aを有し、仕切壁には、上階部屋と上部空間を連通する第二屋内側開口部46bが形成され、第一屋内側開口部は、下階床から第二下階部屋の天井までの高さに設定され、第一屋内側開口部の上端部の高さ位置は、屋外側開口部の上端部の高さ位置よりも低く設定され、第二屋内側開口部の下端部の高さ位置と、屋外側開口部の上端部の高さ位置は略等しい。

【選択図】図7



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

下階と上階とを有する住宅本体と、前記住宅本体における前記上階の上に設けられた傾斜屋根と、を備えている住宅であって、

前記住宅本体の前記下階には、屋外空間に隣接して配置される第一下階部屋と、前記屋外空間に対して奥まって配置されるとともに前記第一下階部屋に隣接して配置される第二下階部屋と、が設けられており、

前記住宅本体の前記上階には、前記第二下階部屋の上方に位置する上階部屋が設けられており、

前記第一下階部屋は、前記傾斜屋根の直下に位置し、当該第一下階部屋の上部空間は前記傾斜屋根まで吹き抜けていて、さらに、当該第一下階部屋における前記屋外空間に隣接する外壁には屋外側開口部が形成されており、

前記第二下階部屋は、前記第一下階部屋と連続する空間として形成されていて、これら第一下階部屋と第二下階部屋との間は、前記第一下階部屋と前記第二下階部屋との間を行き来するための第一屋内側開口部とされており、

前記上階部屋は、前記第一下階部屋の前記上部空間に面する仕切壁を有し、当該仕切壁には、前記上階部屋と前記上部空間とを連通する第二屋内側開口部が形成されており、

前記第一屋内側開口部は、下階床から前記第二下階部屋の天井までの高さに設定されていて、当該第一屋内側開口部の上端部の高さ位置は、前記屋外側開口部の上端部の高さ位置よりも低く設定され、

前記第二屋内側開口部の下端部の高さ位置と、前記屋外側開口部の上端部の高さ位置は略等しく設定されていることを特徴とする住宅。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の住宅において、

前記第二屋内側開口部に設置される窓装置は、少なくとも一部が開閉可能に構成されていることを特徴とする住宅。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の住宅において、

前記傾斜屋根の軒先部は、前記屋外側開口部の上端部よりも上方に位置していることを特徴とする住宅。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の住宅において、

前記第一下階部屋及び前記上階部屋は、前記傾斜屋根における同一の屋根面の下方に位置しており、

前記第一下階部屋は勾配天井とされ、

前記上階部屋の天井は、少なくとも前記仕切壁の近傍が勾配天井とされていて、当該上階部屋の勾配天井は、前記第一下階部屋における前記勾配天井の延長線上に設けられていることを特徴とする住宅。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の住宅において、

前記第二屋内側開口部の上端部の高さ位置は、前記第一下階部屋における前記勾配天井の上端部及び前記上階部屋における前記勾配天井の下端部の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする住宅。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の住宅において、

前記住宅本体は、前記第一下階部屋の屋外側に隣接して設けられるとともに、前記外壁に形成された前記屋外側開口部を通じて前記第一下階部屋との行き来が可能とされた前記屋外空間としてのアウトドアリビングを更に備えており、

前記屋外側開口部の下端部の高さ位置は、前記下階床の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする住宅。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、戸建て住宅においては、居住空間が、上下方向に層が重なり、かつ、下層と上層との間で行き来自在とされた構成となっている場合が多くある。

特許文献1に記載の住宅は、2階建ての戸建て住宅であり、階段を通じて1階と2階との間で行き来が自在となっている。また、1階には、家族が日常的に過ごす場所として利用されるリビングやダイニング等の居室が設けられ、2階には家族が個室として利用する寝室や作業スペースが設けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2022-077330号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところが、従来の住宅は、1階と2階との間で行き来自在となっているものの、1階に居る住人と、2階に居る住人との間で視線が通るわけではなく、空間的なつながりが十分ではなかった。一方で、近年は、在宅勤務の拡大等により家で過ごす時間が増えたことから、個人個人の時間を確保することも重要視されている。

さらに、近年は、例えばZEH（Net Zero Energy House）住宅のように、環境性能の高い住宅が求められている。

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、環境性能の高い住まいを実現しつつ、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保できるようにすることである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

請求項1に記載の発明は、例えば図1～図12に示すように、下階と上階とを有する住宅本体3と、前記住宅本体3における前記上階の上に設けられた傾斜屋根7と、を備えている住宅2であって、

前記住宅本体3の前記下階には、屋外空間（アウトドアリビング11）に隣接して配置される第一下階部屋23（リビングルーム23）と、前記屋外空間に対して奥まって配置されるとともに前記第一下階部屋23に隣接して配置される第二下階部屋24（ダイニングルーム24）と、が設けられており、

前記住宅本体3の前記上階には、前記第二下階部屋24の上方に位置する上階部屋46（第一部屋46）が設けられており、

前記第一下階部屋23は、前記傾斜屋根7の直下に位置し、当該第一下階部屋23の上部空間は前記傾斜屋根7まで吹き抜けていて、さらに、当該第一下階部屋23における前記屋外空間に隣接する外壁5（第二外壁5）には屋外側開口部5a（第三開口部5a）が形成されており、

前記第二下階部屋24は、前記第一下階部屋23と連続する空間として形成されていて、これら第一下階部屋23と第二下階部屋24との間は、前記第一下階部屋23と前記第二下階部屋24との間を行き来するための第一屋内側開口部とされており、

前記上階部屋46は、前記第一下階部屋23の前記上部空間に面する仕切壁46aを有し、当該仕切壁46aには、前記上階部屋46と前記上部空間とを連通する第二屋内側開口部46b（第一開口部46b）が形成されており、

10

20

30

40

50

前記第一屋内側開口部は、下階床から前記第二下階部屋 2 4 の天井までの高さに設定されていて、当該第一屋内側開口部の上端部の高さ位置は、前記屋外側開口部 5 a の上端部の高さ位置よりも低く設定され、

前記第二屋内側開口部 4 6 b の下端部の高さ位置と、前記屋外側開口部 5 a の上端部の高さ位置は略等しく設定されていることを特徴とする。

【0007】

請求項 2 に記載の発明は、例えば図 7，図 8 に示すように、請求項 1 に記載の住宅 2 において、

前記第二屋内側開口部 4 6 b に設置される窓装置は、少なくとも一部が開閉可能に構成されていることを特徴とする。

【0008】

請求項 3 に記載の発明は、例えば図 3，図 7 に示すように、請求項 1 に記載の住宅 2 において、

前記傾斜屋根 7 の軒先部 8 a は、前記屋外側開口部 5 a の上端部よりも上方に位置していることを特徴とする。

【0009】

請求項 4 に記載の発明は、例えば図 1～図 7 に示すように、請求項 1 に記載の住宅 2 において、

前記第一下階部屋 2 3 及び前記上階部屋 4 6 は、前記傾斜屋根 7 における同一の屋根面 7 b (8) の下方に位置しており、

前記第一下階部屋 2 3 の天井は勾配天井 2 3 a とされ、

前記上階部屋 4 6 の天井は、少なくとも前記仕切壁 4 6 a の近傍が勾配天井とされていて、当該上階部屋 4 6 の勾配天井は、前記第一下階部屋 2 3 における前記勾配天井 2 3 a の延長線上に設けられていることを特徴とする。

【0010】

請求項 5 に記載の発明は、例えば図 7 に示すように、請求項 1 に記載の住宅 2 において、

前記第二屋内側開口部 4 6 b の上端部の高さ位置は、前記第一下階部屋 2 3 における前記勾配天井 2 3 a の上端部及び前記上階部屋 4 6 における前記勾配天井の下端部の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする。

【0011】

請求項 6 に記載の発明は、例えば図 1～図 12 に示すように、請求項 1 に記載の住宅 2 において、

前記住宅本体 3 は、前記第一下階部屋 2 3 の屋外側に隣接して設けられるとともに、前記外壁 5 に形成された前記屋外側開口部 5 a を通じて前記第一下階部屋 2 3 との行き来が可能とされた前記屋外空間としてのアウトドアリビング 11 を更に備えており、

前記屋外側開口部 5 a の下端部の高さ位置は、前記下階床の高さ位置と略等しく設定されていることを特徴とする。

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、環境性能の高い住まいを実現しつつ、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図 1】敷地に建築された住宅の外観を示す斜視図である。

【図 2】敷地に建築された住宅の外観を示す斜視図である。

【図 3】敷地に建築された住宅の外観を示す正面図である。

【図 4】敷地に建築された住宅の外観を示す右側面図である。

【図 5】住宅の 1 階を示す平面図である。

【図 6】住宅の 2 階を示す平面図である。

10

20

30

40

50

【図 7】住宅の西側部分を示す縦断面図である。

【図 8】アウトドアリビングから居室を見た状態を示す斜視図である。

【図 9】敷地に建築された変形例の住宅の外観を示す正面図である。

【図 10】敷地に建築された変形例の住宅の外観を示す右側面図である。

【図 11】変形例の住宅の 1 階を示す平面図である。

【図 12】変形例の住宅の 2 階を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。ただし、以下に述べる実施形態には、本発明を実施するために技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の技術的範囲を以下の実施形態及び図示例に限定するものではない。なお、以下の実施形態及び図示例における方角は、あくまでも説明の便宜上設定したものである。

10

【0015】

図 1～図 5 において符号 1 は、宅地である敷地を示す。敷地 1 は、住宅 2 が建てられた第一敷地 1 A と、図示しない道路に面して駐車場とされた第二敷地 1 B と、第二敷地 1 B の一端部から敷地 1 の奥行方向の奥（北側）に伸びる第三敷地 1 C と、を有する。

第二敷地 1 B は、第一敷地 1 A の南側に隣り合って配置されており、第三敷地 1 C は、第一敷地 1 A の東側に隣り合って配置されている。換言すれば、第二敷地 1 B と第三敷地 1 C は、平面視において L 字型を成すように配置されており、第一敷地 1 A は、平面視 L 字型に形成された第二敷地 1 B と第三敷地 1 C の内角部分に配置されている。

20

【0016】

第二敷地 1 B のうち、第一敷地 1 A とは反対側に位置する南側縁部に沿った部分は、敷地 1 全体の接道面 1 D とされている。すなわち、その接道面 1 D よりも南側が、人又は車両が通る道路となっている。そのため、第二敷地 1 B は、駐車スペースとして利用される場合が多い。なお、第二敷地 1 B には、コンクリート板が敷設されている。また、敷地 1 は、周縁部に塀が設けられた状態となっている。

【0017】

第三敷地 1 C は、南側が、駐車スペース及び駐輪スペース等として利用される場合が多い。この第三敷地 1 C の南側部分には、コンクリート板が敷設されている。

第三敷地 1 C の北側は、例えば植栽スペース、家庭菜園スペース、物置スペース、洗濯物干しスペース等として利用されるが、特に限定されるものではない。

30

【0018】

本実施形態の住宅 2 は、壁や床、屋根といった建物の構成要素を予め工場にてパネル化しておき、施工現場でこれらのパネルを組み立てて構築するパネル工法で構築されるが、従来の軸組工法や壁式工法の木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造等の建物にも適用することができる。

また、パネル（建築用木質パネル）とは、縦横の框材が矩形状に組み立てられるとともに、矩形枠の内部に補助材が縦横に組み付けられて枠体が構成され、この枠体の両面もしくは片面に、合板等の面材が貼設されたものであり、内部中空な構造となっている。さらに、その内部中空な部分には、グラスウールやロックウール等の断熱材が装填される。

40

【0019】

また、このような住宅 2 は、図 1～図 4 に示すように、基礎の上に建築された 2 階建ての住宅本体 3 と、住宅本体 3 の上に設けられた傾斜屋根 7 と、を備えている。

住宅本体 3 は、平面視において東西方向よりも南北方向に長く形成されており、傾斜屋根 7 は、住宅本体 3 と同様に南北方向に長く形成された招き屋根とされている。

【0020】

招き屋根である傾斜屋根 7 は、東西方向に伸びる棟部 7 a と、棟部 7 a の南側に位置する南側屋根面 7 b と、棟部 7 a の北側に位置する北側屋根面 7 c と、を備えている。

南側屋根面 7 b と北側屋根面 7 c は、本実施形態においては 1 / 2 勾配とされている。すなわち、南側屋根面 7 b と北側屋根面 7 c は、同一の傾斜角度に設定されている。

50

【0021】

南側屋根面 7 b 全体の屋根流れ方向の長さは、北側屋根面 7 c 全体の屋根流れ方向の長さよりも長く設定されている。

南側屋根面 7 b は、平面視において L 字型に形成されている。すなわち、南側屋根面 7 b は、軒先までの長さが長い部分と、軒先までの長さが短い部分と、を有している。より詳細に説明すると、傾斜屋根 7 における南側屋根面 7 b は、棟部 7 a から第一軒先部 8 a までの長さが長く設定された第一屋根部 8 と、棟部 7 a から第二軒先部 9 a までの長さが短く設定された第二屋根部 9 と、を有しており、第一屋根部 8 と第二屋根部 9 は、互いに隣接するとともに一体形成されて同一の屋根面 7 b を形成している。つまり、南側屋根面 7 b は平面視において略 L 字型に形成されている。そして、第一軒先部 8 a と第二軒先部 9 a は、第一屋根部 8 の東側端部であるケラバ 8 b を介してクランク状に連続している。

10

なお、第二屋根部 9 における棟部 7 a から第二軒先部 9 a までの長さは、北側屋根面 7 c における棟部 7 a から北側軒先部までの長さと同しく設定されている。

【0022】

南側屋根面 7 b の上面には、複数の太陽電池モジュールを有する太陽電池アレイ 10 が設置されている。太陽電池アレイ 10 における複数の太陽電池モジュールも、南側屋根面 7 b の形状に合わせて、平面視において略 L 字型となるように配列されている。すなわち、南側屋根面 7 b は、第一屋根部 8 が、第二屋根部 9 よりも軒先（第一軒先部 8 a）までの長さが長い分、太陽電池モジュールを設置できる面積が広がっている。

20

【0023】

住宅本体 3 は、図 5，図 6 に示すように、以上のような第一屋根部 8 の直下に位置する西側部分 3 a と、以上のような第二屋根部 9 の直下に位置する東側部分 3 b に概ね分かれている。すなわち、住宅本体 3 自体も、南側屋根面 7 b における第一軒先部 8 a までの長さと同第二軒先部 9 a までの長さとの寸法差に応じた形状となっている。つまり、第一屋根部 8 の直下に位置する西側部分 3 a は、第二屋根部 9 の直下に位置する東側部分 3 b よりも南北方向に長く形成されている。

【0024】

このような住宅 2 が建築された第一敷地 1 A のうち、第一屋根部 8 における第一軒先部 8 a の軒下には、屋内のリビングルーム 23 と同様に住人が普段いる場所として利用される屋外空間としてのアウトドアリビング 11 が設けられている。

30

アウトドアリビング 11 は、住宅本体 3 のうち第一屋根部 8 の直下に位置する西側部分 3 a の南側面から第一敷地 1 A の南側端部近傍にかけて設けられている。換言すれば、アウトドアリビング 11 は、住宅本体 3 から第二敷地 1 B 側に向かって張り出すように設けられている。

【0025】

本実施形態のアウトドアリビング 11 は、複数のデッキ材によって床部 11 a が構成されたテラスである。床部 11 a における上面（床面）の高さ位置は、住宅本体 3 における 1 階の床面と同等しい高さに設定されている。

また、アウトドアリビング 11 の南側端部には、手摺り 11 b が設けられており、この手摺り 11 b の上端部はカウンター板 11 c によって構成されている。住人は、例えばカウンター板 11 c に向かって椅子に座り、各種作業を行うなどしてアウトドアリビング 11 で過ごすことができる。

40

したがって、このアウトドアリビング 11 は、住宅 2 のうち、住人が日常的に過ごす場所としては最もオープンな空間で、かつパブリック性の高い場所として利用されている。

【0026】

また、第一敷地 1 A のうち、第二屋根部 9 における第二軒先部 9 a の軒下には、第一敷地 1 A 内で遮蔽壁 13 によって囲まれた半屋外空間としての庭部 12 が設けられている。

庭部 12 は、住宅本体 3 における西側部分 3 a の東側面と、東側部分 3 b の南側面と、平面視において L 型に形成された遮蔽壁 13 と、によって四方が囲まれた状態となっている。庭部 12 の上方は、傾斜屋根 7 がかかっている部分を除いて上空に向かって開放され

50

ている。

【0027】

住宅本体3における東側部分3bには、庭部12に面して、玄関出入口4bが設けられている。より詳細に説明すると、東側部分3bのうち南側に面する外壁4（すなわち、第一外壁4）は、上下階に亘る壁面を有している。そして、外壁4のうち1階部分の一部に開口が形成されていて、当該開口の奥に設けられた外壁部分に、玄関ドアによって開閉される玄関出入口4bが形成されている。

庭部12は、この玄関出入口4bに面している。つまり、玄関出入口4bから屋外に出ると、そこには庭部12がある状態となっていて、住宅本体3の玄関20と庭部12は直結している。なお、玄関出入口4bから庭部12側に出て、外壁4のうち1階部分の一部に形成された上記の開口までの部分の床面（ポーチ床）は、上記の開口よりも屋外側に位置する部分の床面よりも一段高く配置されている。

庭部12には、西側部分3aの東側面から張り出すようにして縁台12aが設けられている。縁台12aの上面の高さ位置は、住宅本体3における1階の床面と略等しい高さに設定されている。

【0028】

住宅本体3の東側面及び南側面と共に庭部12を取り囲む遮蔽壁13は、南側に位置する第一遮蔽壁13aと、西側に位置する第二遮蔽壁13bと、北側に位置する第三遮蔽壁13cと、を備えている。

【0029】

第一遮蔽壁13aは、住宅本体3における東側部分3bのうち南側に面する外壁4（すなわち、第一外壁4）と平行して配置されている。また、第一遮蔽壁13aは、住宅本体3における西側部分3aのうち南側に面する外壁5（すなわち、第二外壁5）とも平行、又は同一直線上に配置されている。さらに、第一遮蔽壁13aは、住宅本体3における東側部分3bのうち東側に面する外壁6（すなわち、第三外壁6）と平面視において直交して配置されている。つまり、第一遮蔽壁13aは、図1～図3に示すように、道路側から見た場合に、第二外壁5と並んで見えるように配置されている。

また、第一遮蔽壁13aの高さ寸法は、第二外壁5と略等しい高さ寸法に設定されている。

【0030】

第二遮蔽壁13bは、第一遮蔽壁13aに対して平面視において直交して配置されている。より詳細に説明すると、第一遮蔽壁13aの東側端部と、第二遮蔽壁13bの南側端部とが接続されており、第二遮蔽壁13bは、平面視において第一遮蔽壁13aの東側端部から北に向かって伸びている。第二遮蔽壁13bの北側端部は、棟部7aより北側に位置している。この第二遮蔽壁13bは、第三外壁6と平行し、かつ、住宅本体3の東側部分3bにおける東側面に沿って配置されている。

また、第二遮蔽壁13bの高さ寸法は、第一遮蔽壁13aと等しい高さ寸法に設定されている。

なお、この第二遮蔽壁13bは、玄関出入口4bよりも北側に位置する部位が、住宅本体3の外壁として機能している。換言すれば、第二遮蔽壁13bのうち、玄関出入口4bよりも南側に位置する部位が、遮蔽壁13として機能することになる。

【0031】

第三遮蔽壁13cは、平面視において、第二遮蔽壁13bに対して直交して配置されているとともに、第一遮蔽壁13aと平行して配置されている。より詳細に説明すると、第二遮蔽壁13bの北側端部と、第三遮蔽壁13cの東側端部とが接続されており、第三遮蔽壁13cは、平面視において第二遮蔽壁13bの北側端部から西に向かって伸びている。そして、第三遮蔽壁13cの西側端部は、住宅本体3の東側部分3bにおける東側面に接続されている。

また、第三遮蔽壁13cの高さ寸法は、第二遮蔽壁13bと等しい高さ寸法に設定されている。

なお、この第三遮蔽壁 13 c は、住宅本体 3 の外壁として機能している。

【0032】

このように構成された遮蔽壁 13 のうち南側の第一遮蔽壁 13 a には、庭部 12 と道路側とを連通する出入口としての門 14 と、当該門 14 を開閉する門扉 14 a と、宅配ボックス 15 とが設けられている。門 14 は、玄関出入口 4 b と正対して配置されており、宅配ボックス 15 は、門 14 の横に設けられている。

門 14 及び門扉 14 a の道路側は、第一敷地 1 A の南側端部及び第二敷地 1 B を横切って接道面 1 D まで続く玄関アプローチ 1 E とされている。玄関アプローチ 1 E は、アウトドアリビング 11 の東側に沿って接道面 1 D まで伸びている。すなわち、庭部 12 は、住宅本体 3 の玄関出入口 4 b と玄関アプローチ 1 E との間に位置していることとなる。

10

【0033】

庭部 12 は、門 14 を通じて外部との出入りも可能であるし、遮蔽壁 13 によって囲われているため、例えば子供が遊んだり、高齢者が縁台 12 a に座って会話をしたりするような場所として好適である。したがって、この庭部 12 は、住人が日常的に過ごす場所としては比較的オープンで、かつパブリック性も高めでありながら、外部からの視線を効果的に遮ることができるようなプライベート性も兼ね備えた場所として利用されている。

【0034】

次に、図 5 ～図 8 を参照して、住宅本体 3 の内部について説明する。

【0035】

玄関出入口 4 b を通過した位置には玄関 20 が設けられている。

20

玄関 20 は、上記のポーチ床と略等しい高さの床面とされた土間床部 20 a と、土間床部 20 a から一段上がった位置の玄関ホール部 20 b と、を有している。なお、玄関ホール部 20 b における床の高さ位置は、1 階全体の床の高さ位置と等しい。

土間床部 20 a の北側には、シューズクローゼットが設けられている。また、土間床部 20 a の東側には嵌め殺し窓 20 c があり、第三敷地 1 C が見えるようになっている。つまり、この嵌め殺し窓 20 c は、第二遮蔽壁 13 b に設けられている。

なお、嵌め殺し窓 20 c の屋内側は、腰掛部となっている。

【0036】

玄関ホール部 20 b は、南北方向に伸びる廊下としても機能しており、南側端部における西側面には、住宅本体 3 の西側部分 3 a に通じる出入口が設けられている。また、南側端部における南側には収納スペースが設けられている。

30

玄関ホール部 20 b の北側端部における東側には、トイレ 21 が設けられている。すなわち、トイレ 21 は、玄関 20 の北側に配置された状態となっている。

玄関ホール部 20 b の北側端部における西側には、後述する階段 27 の下方空間を利用した階段下収納部 27 a が設けられている。

玄関ホール部 20 b の北側端部における北側には、複数の非居室 28, 29, 30 及び小部屋 31 を備えたバックヤードゾーンに通じる出入口が設けられている。

【0037】

玄関ホール部 20 b の南側端部における西側面に設けられた出入口を通過した先の、住宅本体 3 の西側部分 3 a には、居室 22 が設けられている。

40

居室 22 は、リビングルーム 23 (以下、リビング 23) とダイニングルーム 24 (以下、ダイニング 24) とキッチンルーム 25 (以下、キッチン 25) の機能を一室に併存させた部屋である。

【0038】

リビング 23 (下階居室 23) は、西側部分 3 a の南側端部に配置されており、南側に位置する第二外壁 5 を介してアウトドアリビング 11 と隣接している。換言すれば、リビング 23 とアウトドアリビング 11 との間には第二外壁 5 が設けられている。

第二外壁 5 には、開口部 5 a (第三開口部 5 a) が形成されている。第三開口部 5 a は、居室 22 の床面から第二外壁 5 の上端部付近までの高さに形成された掃き出し窓とされている。また、この第三開口部 5 a は、第二外壁 5 の大部分を占める面積に設定された大

50

開口となっている。

アウトドアリビング 1 1 は、第二外壁 5 から張り出すようにして設けられており、第三開口部 5 a を通じてリビング 2 3 とアウトドアリビング 1 1 との間を自在に行き来することができる。

【0039】

リビング 2 3 は、西側部分 3 a の南側端部における東側に位置する第三外壁 6 を介して庭部 1 2 と隣接している。換言すれば、リビング 2 3 と庭部 1 2 との間には第三外壁 6 が設けられている。第三外壁 6 は、住宅本体 3 の西側部分 3 a における東側面を構成しているため、上端部が、第一屋根部 8 の傾斜角度に合わせて斜めに形成されている。

第三外壁 6 には、開口部 6 a (第四開口部 6 a) が形成されている。第四開口部 6 a は、居室 2 2 の床面から、第二外壁 5 の第三開口部 5 a と同程度の高さ位置まで形成された掃き出し窓とされている。

縁台 1 2 a は、第三外壁 6 から張り出すようにして設けられており、第四開口部 6 a を通じてリビング 2 3 と縁台 1 2 a との間を自在に行き来することができる。

【0040】

なお、第二外壁 5 のうち第三開口部 5 a が形成されている部位は、西側部分 3 a の南端面よりも屋内側に後退して配置されている。換言すれば、住宅本体 3 における西側部分 3 a のうち南側に面する外壁は、基礎から第一屋根部 8 に亘る壁面を有している。そして、この外壁の一部に開口が形成されていて、当該開口の奥に設けられた外壁部分に、第三開口部 5 a が形成されている。したがって、第二外壁 5 のうち第三開口部 5 a が形成された部位の左右に設けられた外壁は南側に伸びている。アウトドアリビング 1 1 は、このような左右の外壁間に設けられていて、アウトドアリビング 1 1 の領域が規定された状態となっている。

なお、アウトドアリビング 1 1 の西側に位置する外壁は、屋内側が平面視において凹型に形成されていて、その内側を収納スペースとして利用できるようになっている。

【0041】

リビング 2 3 は、図 7 に示すように、第一屋根部 8 の直下に位置し、その上部空間が第一屋根部 8 の近傍まで吹き抜けて勾配天井 2 3 a とされている。

勾配天井 2 3 a の下端部は、住宅本体 3 における 2 階の床よりも高い位置に配置されている。勾配天井 2 3 a の上端部は、後述する仕切壁 4 6 a の上端部と略等しい高さ位置に配置されている。そして、勾配天井 2 3 a の傾斜角度は、第一屋根部 8 の傾斜角度と等しく設定されている。

【0042】

ダイニング 2 4 及びキッチン 2 5 は、リビング 2 3 の北側に配置されている。キッチン 2 5 にはキッチン台 2 5 a が設置されている。キッチン台 2 5 a は、バックヤードゾーンの内壁 2 6 に接するペニンシュラキッチンとされている。ダイニング 2 4 にはダイニングテーブル 2 4 a が設置されている。なお、本実施形態において、ダイニングテーブル 2 4 a は、キッチン台 2 5 a と南北に隣接して設けられているが、キッチン台 2 5 a から離間して設置されてもよい。

【0043】

居室 2 2 には、階段 2 7 が設けられている。このように階段 2 7 が居室 2 2 に配置されることで、いわゆるセンターリビング設計を実現できる。センターリビングとは、玄関からリビングを通らないと他の階には行けない間取りを指す。すなわち、本実施形態の住宅 2 も、階段 2 7 が居室 2 2 に配置されることで、玄関 2 0 から居室 2 2 に入らないと他の階には行けない間取りとなっている。

本実施形態の階段 2 7 は、南側から北側に向かって上っていく直階段であり、この階段 2 7 の下方空間には、上記のように階段下収納部 2 7 a がある。

【0044】

住宅本体 3 における 1 階の北側端部は、西側部分 3 a から東側部分 3 b に亘るバックヤードゾーンとなっている。バックヤードゾーンと、玄関 2 0 及び居室 2 2 との間には、上

10

20

30

40

50

記の内壁 2 6 が設けられている。換言すれば、住宅本体 3 の 1 階は、内壁 2 6 によって仕切られた北側の領域が、バックヤードゾーンとされている。

内壁 2 6 には、玄関ホール部 2 0 b 側の出入口 2 6 a と、キッチン台 2 5 a と階段 2 7 との間に位置する出入口 2 6 b と、キッチン台 2 5 a の西側に位置する出入口 2 6 c とが形成されている。これにより、ダイニングテーブル 2 4 a 及びキッチン台 2 5 a の周囲と、階段 2 7 の周囲に回遊動線を形成することができる。

なお、各出入口 2 6 a , 2 6 b , 2 6 c は、扉・引戸等の建具によって開閉される。

【 0 0 4 5 】

そして、バックヤードゾーンは、上記のように、複数の非居室 2 8 , 2 9 , 3 0 及び小部屋 3 1 を備えている。

非居室 2 8 は浴室であり、バックヤードゾーンのうち最も東側に配置されている。

非居室 2 9 はランドリールームであり、浴室である非居室 2 8 の西側に隣接して配置されている。

非居室 3 0 は洗面所であり、ランドリールームである非居室 2 9 の西側に隣接して配置されている。

小部屋 3 1 は、居室 2 2 の北側端部に隣接して設けられるとともに、居室 2 2 との間の内壁 2 6 に形成された出入口 2 6 c (第三出入口 2 6 c) を通じて居室 2 2 との行き来が可能とされている。

複数の非居室 2 8 , 2 9 , 3 0 及び小部屋 3 1 は、東西方向に並んで配置されており、内壁 2 6 に沿った箇所を、各非居室 2 8 , 2 9 , 3 0 及び小部屋 3 1 間を行き来するための通路として利用できるようになっている。また、通路上には、建具が適宜設けられている。上記の出入口 2 6 a , 2 6 b , 2 6 c は、当該通路に面して設けられている。

【 0 0 4 6 】

この小部屋 3 1 は、住宅本体 3 の西側部分 3 a のうちアウトドアリビング 1 1 から最も遠い位置にある部屋であり、キッチン 2 5 との間の出入口 2 6 c も建具によって閉塞することができる。そのため、小部屋 3 1 は、キッチン 2 5 や非居室 2 8 , 2 9 , 3 0 で家事を行う住人が休憩を取ったり、テレワークを行いながら家事を遂行したりするような場所として好適である。したがって、この庭部 1 2 は、住人が日常的に過ごす場所としては最もクローズドな空間で、プライバシー性が高い場所として利用されている。

小部屋 3 1 には、小部屋 3 1 で快適に過ごせるように、住人が座るための腰掛部 3 1 a が少なくとも設置されている。なお、本実施形態においては、テレワークも行うことができるように、作業カウンター 3 1 b が設けられている。

【 0 0 4 7 】

続いて、階段 2 7 を上ると住宅本体 3 の 2 階がある。2 階の床は全て等しい高さ位置となっている。階段 2 7 を上った先には、まず、東西方向に伸びる第一廊下 4 0 が設けられている。また、この第一廊下 4 0 の西側端部と平面視において直交し、南北方向に伸びる第二廊下 4 1 が設けられている。また、第二廊下 4 1 は、階段 2 7 に沿って配置されている。

第一廊下 4 0 と第二廊下 4 1 は、互いに直交して配置されることによって略 L 字型に形成されている。

なお、第一廊下 4 0 の北側にはトイレ 4 2 が設けられている。第一廊下 4 0 とトイレ 4 2 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

【 0 0 4 8 】

階段 2 7 及び第一廊下 4 0 の東側には、第一寝室 4 3 が設けられている。第一廊下 4 0 の東側端部と第一寝室 4 3 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

この第一寝室 4 3 は、住人が日常的に過ごす場所であり、いわゆる主寝室として利用できるようになっている。第一寝室 4 3 は、住宅本体 3 における東側部分 3 b に位置し、南側屋根面 7 b の第二屋根部 9 及び北側屋根面 4 c の直下に設けられている。

【 0 0 4 9 】

第一廊下 4 0 及び第二廊下 4 1 の西側には、第二寝室 4 4 が設けられている。第一廊下

10

20

30

40

50

40の西側端部と第二寝室44との間には、建具付きの出入口が設けられている。

この第二寝室44は、住人が日常的に過ごす場所であり、いわゆる寝室（子供部屋）として利用できるようになっている。第二寝室44は、住宅本体3における西側部分3aに位置し、南側屋根面7bの第一屋根部8及び北側屋根面4cの直下に設けられている。

【0050】

第二廊下41及び第二寝室44の南側には、住人同士で共有する多目的スペース（マルチコモンズ）として利用される第一部屋46が設けられている。第二廊下41の南側端部と第一部屋46との間には、建具付きの出入口が設けられている。

第一部屋46は、第一屋根部8の直下に位置しており、1階のリビング23の上部空間と南北に隣接して配置されている。そのため、第一部屋46の南側には、リビング23の上部空間に面する仕切壁46aが設けられている。仕切壁46aは、平面視において第二外壁5と平行に配置されるとともに、第三外壁6と直交して配置されている。

【0051】

仕切壁46aには、第一部屋46と上部空間とを連通する第一開口部46bが形成されている。第一開口部46bは、第一部屋46の床面から仕切壁46aの上端部付近までの高さ形成されており、縦横の木材によって複数の小開口を有した状態となっている。これら複数の小開口は、嵌め殺し窓とされているが、これに限られるものではなく、開閉可能な窓であってもよい。また、第一開口部46bは、下端部が、人の腰ぐらいの高さ（例えば床から約80～100cm程度）に位置する腰高窓とされてもよい。

【0052】

第一開口部46bから南側に向かって水平に視線を向けると、リビング23の勾配天井23aが視界に入ることとなる。また、図8等示すように、第一開口部46bから南側に向かって斜め下に視線を向けると、リビング23と、第二外壁5に形成された第三開口部5aと、その第三開口部5aの屋外側にあるアウトドアリビング11とが視界に入ることとなる。さらに、第一開口部46bから南東側に向かって斜め下に視線を向けると、リビング23と、第三外壁6に形成された第四開口部6aと、その第四開口部6aの屋外側にある庭部12（縁台12aを含む）とが視界に入ることとなる。

第一部屋46は、机や椅子が設置されていて、しかも、2階に設けられているため、テレワーク等の作業を行うのに好適なスペースとなっている。そして、第一部屋46は、上記のように第一開口部46bから1階及び屋外空間が視界に入るようになっているので、住人は、第一部屋46で作業や執務を行いながら、第一開口部46bに視線を向けることで、当該第一開口部46bを通じて1階及び屋外空間の様子を窺うことが可能となる。

【0053】

第一部屋46の天井は、図6示す破線L1の位置を境にして水平天井部分と勾配天井部分に分かれている。第一部屋46の勾配天井は、図7示すように、リビング23の勾配天井23aと同一直線上に配置されている。換言すれば、1階から2階に続く勾配天井23aの途中部分に、仕切壁46aが設けられたような状態となっている。

【0054】

第一部屋46の東側端部であって、かつ、階段27の南側は通路46cとなっている。通路46cは、第一寝室43の南側に位置する第二部屋47と隣接して配置されている。通路46cと第二部屋47との間には、建具付きの出入口が設けられている。

なお、通路46cの南側は、平面視において凹型に形成された壁を利用した収納スペースとなっている。

【0055】

第二部屋47は、第一寝室43の南側に隣接して配置されている。すなわち、住宅本体3の東側部分3bに配置されているとともに、第二屋根部9の直下に位置している。

このような第二部屋47は、屋外空間に面する外壁4（第一外壁4）を有し、当該外壁4には、第二部屋47と屋外空間とを連通する開口部4a（第二開口部4a）が形成されている。換言すれば、第二部屋47は、住宅本体3における東側部分3bの南側端部に設けられている。第二開口部4aは、遮蔽壁13よりも上方に位置しているため、庭部12

10

20

30

40

50

の上方空間に面している状態となっている。

なお、第二開口部 4 a は、第二部屋 4 7 の床面から外壁 4 の上端部付近までの高さに形成されており、縦横に仕切られることによって複数の小開口を有した状態となっている。これら複数の小開口は、嵌め殺し窓とされているが、これに限られるものではなく、開閉可能な窓であってもよい。

【0056】

第一寝室 4 3 と第二部屋 4 7 との間には、開閉自在に構成された引戸 4 7 a が設けられている。そのため、引戸 4 7 a を開ければ、第一寝室 4 3 と第二部屋 4 7 は空間的に連続した状態となる。換言すれば、第一寝室 4 3 と第二部屋 4 7 は、出入口を有していない一つの部屋であり、このような一つの部屋が引戸 4 7 a によって仕切られた状態となっている。

10

本実施形態においては、第一寝室 4 3 と第二部屋 4 7 を仕切るものとして引戸 4 7 a が用いられているが、これに限られるものではなく、壁に沿って収納可能に構成され、その収納場所から展開される仕切り装置であってもよい。

【0057】

第二部屋 4 7 は、主に、第一寝室 4 3 を使用する住人と、第一部屋 4 6 を使用する住人が多目的スペース（マルチユック）として利用する小部屋である。第二部屋 4 7 は、例えば洗濯物干しスペース、休憩スペース等として利用されるが、特に限定されるものではない。第一部屋 4 6 を、テレワーク等の作業スペースとして利用した住人は、第二部屋 4 7 を休憩スペースとして利用し、庭部 1 2 で遊ぶ子供の様子を確認したり、洗濯物干し作業を行ったりすることができる。

20

【0058】

第二開口部 4 a は遮蔽壁 1 3 よりも上方に位置しているため、第二開口部 4 a から南側に向かって水平に視線を向けると、道路が視界に入ることとなる。また、第二開口部 4 a から南側に向かって斜め下に視線を向けると、庭部 1 2 と、門 1 4 とが視界に入ることとなる。門扉 1 4 a が透視性を有する構成であった場合には、門 1 4 の外側の玄関アプローチ 1 E も視界に入ることとなる。さらに、第二開口部 4 a は、平面視において第四開口部 6 a と直交して配置されていることから、第二開口部 4 a から南西側に視線を向けると、第四開口部 6 a を通じてリビング 2 3 が視界に入ることとなる。そのため、第二部屋 4 7 に居る住人は、第二部屋 4 7 で作業したり休憩したりしながら、第二開口部 4 a に視線を向けることで、当該第二開口部 4 a を通じて 1 階及び屋外空間の様子を窺うことが可能となる。

30

【0059】

本実施形態によれば、以下のような優れた効果を奏する。

すなわち、傾斜屋根 7 における同一の屋根面 7 b を形成する第一屋根部 8 と第二屋根部 9 のうち、第一屋根部 8 の第一軒先部 8 a を、第二屋根部 9 の第二軒先部 9 a よりも長くすることができるので、その分だけ屋根 7 の面積を広くすることができる。これにより、例えば太陽電池アレイ 1 0 等の発電装置を設置可能な面積を広く確保できるので、環境性能の高い住まいの実現に貢献できる。

その上、リビング 2 3 は、第一屋根部 8 の直下に位置し、その上部空間が第一屋根部 8 の近傍まで吹き抜けて勾配天井 2 3 a とされているので、例えば天井高が総二階分の高さに設定されるとともに水平な天井の場合に比して気積を減らすことが可能となる。これにより、リビング 2 3 における空調効率を向上させることができるので、環境性能の高い住まいの実現に貢献できる。

40

また、第一屋根部 8 の直下に位置する第一部屋 4 6 は、リビング 2 3 の上部空間に面する仕切壁 4 6 a を有し、当該仕切壁 4 6 a には、第一部屋 4 6 と上部空間とを連通する第一開口部 4 6 b が形成されているので、第一部屋 4 6 とリビング 2 3 との間で視線が通ることになる。さらに、第二屋根部 9 の直下に位置する第二部屋 4 7 は、屋外空間に面する第一外壁 4 を有し、当該第一外壁 4 には、第二部屋 4 7 と屋外空間とを連通する第二開口部 4 a が形成されているので、第二部屋 4 7 と屋外空間との間で視線が通ることになる。

50

そのため、上階に居る住人は、第一部屋 4 6 又は第二部屋 4 7 で過ごしつつ、第一部屋 4 6 又は第二部屋 4 7 からリビング 2 3 又は屋外空間の様子を窺うことができる。下階に居る住人は、リビング 2 3 又は屋外空間で過ごしつつ、リビング 2 3 又は屋外空間から第一部屋 4 6 又は第二部屋 4 7 の様子を窺うことができる。これにより、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。

【0060】

また、第一外壁 4 は、仕切壁 4 6 a と同じ向きに配置されているので、第一開口部 4 6 b から見えるリビング 2 3 と、第二開口部 4 a から見える屋外空間とが必然的に同じ向きに配置されることとなる。したがって、これらリビング 2 3 と屋外空間とを、空間的なつながりを持たせた状態にしやすいので、住宅 2 又は住宅 2 が建築された敷地 1 のうち、第一開口部 4 6 b から見えるリビング 2 3 と第二開口部 4 a から見える屋外空間が配置された方向に、住人が集まりやすい空間を形成しやすくなる。これにより、第一部屋 4 6 又は第二部屋 4 7 から、下階に居る住人が目に入りやすくなるので、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保しやすくなる。

【0061】

また、第一部屋 4 6 と第二部屋 4 7 は隣接して配置されているので、第一開口部 4 6 b から見えるリビング 2 3 と、第二開口部 4 a から見える屋外空間とが必然的に隣接して配置されることとなる。したがって、これらリビング 2 3 と屋外空間とを、空間的なつながりを持たせた状態にしやすいので、住宅 2 又は住宅 2 が建築された敷地 1 のうち、第一開口部 4 6 b から見えるリビング 2 3 と第二開口部 4 a から見える屋外空間が配置された箇所に、住人が集まりやすい空間を形成しやすくなる。これにより、第一部屋 4 6 又は第二部屋 4 7 から、下階に居る住人が目に入りやすくなるので、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保しやすくなる。

【0062】

また、第一開口部 4 6 b は、その上端縁が勾配天井 2 3 b の付近に位置し、下端縁が第一部屋 4 6 の床の付近に位置しているので、第一開口部 4 6 b の上下寸法を長く確保することができる。そのため、第一部屋 4 6 とリビング 2 3 との間で視線が通りやすくなるので、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保しやすくなる。

【0063】

また、第一開口部 4 6 b が、その上端縁が勾配天井 2 3 a の付近に位置し、下端縁が第一部屋 4 6 の床よりも上方に位置する腰高窓とされている場合には、第一部屋 4 6 とリビング 2 3 との間での視線の通りやすさを、ある程度制限することができ、上下階間でのプライバシー保護に貢献できるので好ましい。

【0064】

また、リビング 2 3 との間の第二外壁 5 に形成された第三開口部 5 a を通じてリビング 2 3 との行き来が可能とされた屋外空間としてのアウトドアリビング 1 1 が、リビング 2 3 のうち第一軒先部 8 a 側の端部の屋外側に隣接して設けられているので、第一開口部 4 6 b、リビング 2 3 及び第三開口部 5 a を通じて、第一部屋 4 6 とアウトドアリビング 1 1 との間で視線が通ることになる。したがって、上階に居る住人は、第一部屋 4 6 で過ごしつつ、第一部屋 4 6 からリビング 2 3 及びアウトドアリビング 1 1 の様子を窺うことができる。アウトドアリビング 1 1 に居る住人は、アウトドアリビング 1 1 で過ごしつつ、アウトドアリビング 1 1 からリビング 2 3 及び第一部屋 4 6 の様子を窺うことができる。これにより、上下階間で、かつ、屋内と屋外との間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。

【0065】

また、傾斜屋根 7 には発電装置 1 0 が設けられているので、発電装置 1 0 が、例えば太陽電池アレイ 1 0 等のような再生可能エネルギーを利用する発電装置であれば、環境性能の高い住まいの実現に貢献できる。

【0066】

また、第一外壁 4 が面している屋外空間は、敷地 1 内で遮蔽壁 1 3 によって囲まれた庭

10

20

30

40

50

部 1 2 を有しており、リビング 2 3 は、庭部 1 2 に面する第三外壁 6 を有し、当該第三外壁 6 には、リビング 2 3 と庭部 1 2 とを連通する第四開口部 6 a が形成されているので、第四開口部 6 a を通じてリビング 2 3 と庭部 1 2 との間で視線が通ることになる。これにより、屋内と屋外との間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。しかも、例えば第一開口部 4 6 b 又は第二開口部 4 a が、第四開口部 6 a から見える位置に配置されていれば、第四開口部 6 a を通じて、上下階間で、かつ、屋内と屋外との間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。

さらに、庭部 1 2 は、敷地 1 内で遮蔽壁 1 3 によって囲まれているので、敷地 1 外からは見えにくく、かつ、第二開口部 4 a からは見えやすい。そのため、庭部 1 2 は、セキュリティが高く、例えば子供が遊ぶ空間として好適となる。

10

【0067】

また、庭部 1 2 は、住宅本体 3 の玄関出入口 4 b と玄関アプローチ 1 E との間に位置しており、遮蔽壁 1 3 のうち玄関アプローチ 1 E 側の部位には、門 1 4 と、当該門 1 4 を開閉する門扉 1 4 a と、宅配ボックス 1 5 とが設けられているので、第二開口部 4 a から、門 1 4 を出入りする人の様子や宅配ボックス 1 5 への荷物の収納の様子を窺うことができる。

【0068】

また、第二開口部 4 a と第四開口部 6 a は、平面視において直交する方向に配置されているので、上階側の第二開口部 4 a と、下階側の第四開口部 6 a との間で視線が通ることになる。これにより、第二開口部 4 a 及び第四開口部 6 a を通じて、上下階間で、かつ、

20

【0069】

また、リビング 2 3 と、リビング 2 3 の南側端部における南側面の屋外側に隣接して設けられるとともに、リビング 2 3 との間の第二外壁 5 に形成された第三開口部 5 a を通じてリビング 2 3 との行き来が可能とされた屋外空間としてのアウトドアリビング 1 1 と、リビング 2 3 の南側端部における東側面の屋外側に隣接して設けられるとともに、リビング 2 3 との間の第三外壁 6 に形成された第四開口部 6 a を通じて行き来が可能とされ、かつ、敷地 1 内で遮蔽壁 1 3 によって囲まれた半屋外空間としての庭部 1 2 と、リビング 2 3 の北側端部における北側面に隣接して設けられるとともに、リビング 2 3 との間の仕切壁である内壁 2 6 に形成された出入口 2 6 c を通じてリビング 2 3 との行き来が可能とされた屋内空間としての小部屋 3 1 と、を備えており、リビング 2 3 の南側端部は、敷地 1 のうち接道面 1 D 側に配置されているので、アウトドアリビング 1 1 が道路の最も近くに配置され、庭部 1 2 が道路の近くに配置されつつも遮蔽壁 1 3 によって遮蔽され、小部屋 3 1 が道路から最も遠くに配置されることになる。これにより、住人は、リビング 2 3 を中心とした生活を送る際に、リビング 2 3 で過ごす選択肢の他に、パブリック性の高いアウトドアリビング 1 1 で過ごす選択肢と、パブリック性とプライベート性を併せ持つ庭部 1 2 で過ごす選択肢と、プライベート性の高い小部屋 3 1 で過ごす選択肢の中から任意の場所を選ぶことができる。そのため、リビング 2 3 を中心とした過ごし方のバリエーションを豊富にして、リビング 2 3 を中心とした生活を送る上での快適性を向上させることができる。

30

40

【0070】

また、アウトドアリビング 1 1 は、住宅本体 3 の外側面から張り出す床部 1 1 a と、床部 1 1 a の張り出し方向先端部に配置された手摺り 1 1 b と、を有し、手摺り 1 1 b の上端部はカウンター板 1 1 c によって構成されているので、手摺り 1 1 b の位置は、住宅本体 3 から、より遠い位置に配置される。つまり、道路に近い側に配置されることとなる。そのため、カウンター板 1 1 c 上で作業等を行う場合には、オープンな空間で作業を行うことになる。したがって、住人にとって、アウトドアリビング 1 1 は、住宅 2 のうち、住人が日常的に過ごす場所としては最もオープンな空間で、かつパブリック性の高い場所として認識されることとなり、リビング 2 3 を中心とした過ごし方のバリエーションを豊富にすることに貢献できる。

50

【0071】

また、接道面1Dは、アウトドアリビング11よりも外側に位置しており、遮蔽壁13における接道面1D側の部位から、アウトドアリビング11の側方を通過して接道面1Dまでの間に設けられた玄関アプローチ1Eを更に備えているので、アウトドアリビング11の様子を窺いながら、玄関アプローチ1Eを通過することができる。また、反対に、玄関アプローチ1Eを通過する人を、アウトドアリビング11から確認することができる。そのため、住宅2のセキュリティ性を向上させることができる。

【0072】

また、小部屋31には、人が座るための腰掛部31aが少なくとも設置されているので、小部屋31で過ごす際の快適性を向上させることができる。

10

【0073】

また、近年、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの推進による脱炭素社会の実現や、SDGs (Sustainable Development Goals) の目標達成が求められており、建築業界においても、建物を二酸化炭素排出量の少ない木造とする取り組みが進められている。本実施形態の住宅2は、木造の戸建て住宅であるため、カーボンニュートラルの推進による脱炭素社会の実現や、SDGsの目標達成に貢献できる。

【0074】

〔変形例〕

なお、本発明を適用可能な実施形態は、上述した実施形態に限定されることなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。以下、変形例について説明する。以下に挙げる変形例は可能な限り組み合わせてもよい。また、以下の各変形例において、上述の実施形態と共通する要素については、共通の符号を付し、説明を省略又は簡略する。

20

【0075】

〔変形例1〕

図9～図11において符号51は、宅地である敷地を示す。敷地51は、住宅52が建てられた第一敷地51Aと、図示しない道路に面して駐車場とされた第二敷地51Bと、を有する。第一敷地51Aは、周縁部に塀が設けられた状態となっている。また、第二敷地51Bは、第一敷地1Aの南側に隣り合って配置されている。

第二敷地51Bのうち、第一敷地51Aとは反対側に位置する南側縁部に沿った部分は、敷地1全体の接道面51Dとされている。

30

【0076】

本変形例の住宅52は、基礎の上に建築された2階建ての住宅本体53と、住宅本体53の上に設けられた傾斜屋根57と、を備えている。

本変形例の傾斜屋根57は、上記の実施形態における傾斜屋根7と略同様の構成であるため説明を省略する。なお、南側屋根面7bの上面には太陽電池アレイ10が設置されているが、複数の太陽電池モジュールの設置範囲は特に限定されるものではない。

【0077】

住宅本体53は、図11，図12に示すように、第一屋根部8の直下に位置する西側部分53aと、第二屋根部9の直下に位置する東側部分53bに概ね分かれている。

このような住宅52が建築された第一敷地51Aのうち、第一屋根部8における第一軒先部8aの軒下には、屋内のリビングルームと同様に住人が普段いる場所として利用される屋外空間としてのアウトドアリビング61が設けられている。

40

アウトドアリビング61は、住宅本体3のうち第一屋根部8の直下に位置する西側部分53aの南側面から第一敷地1Aの南側端部近傍にかけて設けられている。

【0078】

本実施形態のアウトドアリビング61は、複数のデッキ材によって床部61aが構成されたテラスである。このアウトドアリビング61は、住宅2のうち、住人が日常的に過ごす場所としては最もオープンな空間で、かつパブリック性の高い場所として利用されている。

【0079】

50

また、第一敷地 5 1 A のうち、第二屋根部 9 における第二軒先部 9 a の軒下は、接道面 5 1 D まで続く玄関アプローチ 5 1 E の一部となっている。

住宅本体 5 3 における東側部分 5 3 b には、上記の玄関アプローチ 5 1 E の一部に面して、玄関出入口 5 4 b が設けられている。より詳細に説明すると、東側部分 5 3 b のうち南側に面する外壁 5 4 (すなわち、第一外壁 5 4) は、上下階に亘る壁面を有している。そして、外壁 5 4 のうち 1 階部分の一部に開口が形成されていて、当該開口の奥に設けられた外壁部分に、玄関ドアによって開閉される玄関出入口 5 4 b が形成されている。また、当該開口の横には、宅配ボックス 5 4 c が設けられている。

玄関アプローチ 5 1 E の一部には、西側部分 5 3 a の東側面から張り出すようにして縁台 6 2 a が設けられている。

【 0 0 8 0 】

次に、図 1 1 , 図 1 2 を参照して、住宅本体 5 3 の内部について説明する。

【 0 0 8 1 】

玄関出入口 5 4 b を通過した位置には玄関 7 0 が設けられている。

玄関 7 0 は、玄関出入口 5 4 b 外のポーチ床と略等しい高さの床面とされた土間床部 7 0 a と、土間床部 7 0 a から一段上がった位置の玄関ホール部 7 0 b と、ウォークスルークローク 7 0 c と、を有している。なお、玄関ホール部 7 0 b における床の高さ位置は、1 階全体の床の高さ位置と等しい。

ウォークスルークローク 7 0 c は、シューズクローゼット、コート掛け等を有する。

【 0 0 8 2 】

玄関ホール部 7 0 b は、廊下としても機能しており、南側端部における西側面には、住宅本体 5 3 の西側部分 5 3 a に通じる出入口が設けられている。また、南側端部における南側には収納スペースが設けられている。さらに、南側端部における北側には、階段 7 7 が設けられている。階段 7 7 は、下方空間を利用した階段下収納部 7 7 a を備え、階段下収納部 7 7 a は、玄関ホール部 2 0 b から使用できる。

玄関ホール部 7 0 b の北側端部における北側には、複数の非居室 7 8 , 7 9 , 8 0 , 8 1 を備えたバックヤードゾーンに通じる出入口が設けられている。

【 0 0 8 3 】

玄関ホール部 7 0 b の南側端部における西側面に設けられた出入口を通過した先の、住宅本体 5 3 の西側部分 5 3 a には、居室 7 2 が設けられている。

居室 7 2 は、リビングルーム 7 3 (以下、リビング 7 3) とダイニングルーム 7 4 (以下、ダイニング 7 4) とキッチンルーム 7 5 (以下、キッチン 7 5) の機能を一室に併存させた部屋である。

【 0 0 8 4 】

リビング 7 3 (下階居室 7 3) は、西側部分 5 3 a の南側端部に配置されており、南側に位置する第二外壁 5 5 を介してアウトドアリビング 6 1 と隣接している。

第二外壁 5 5 には、開口部 5 5 a (第三開口部 5 5 a) が形成されている。第三開口部 5 5 a は、居室 7 2 の床面から第二外壁 5 5 の上端部付近までの高さに形成された掃き出し窓とされている。また、この第三開口部 5 5 a は、第二外壁 5 5 の大部分を占める面積に設定された大開口となっている。

アウトドアリビング 6 1 は、第二外壁 5 5 から張り出すようにして設けられており、第三開口部 5 5 a を通じてリビング 7 3 とアウトドアリビング 6 1 との間を自在に行き来することができる。

【 0 0 8 5 】

リビング 7 3 は、西側部分 5 3 a の南側端部における東側に位置する第三外壁 5 6 を介して屋外空間 (玄関アプローチ 5 1 E の一部) と隣接している。

第三外壁 5 6 には、開口部 5 6 a (第四開口部 5 6 a) が形成されている。第四開口部 5 6 a は、下端部が、居室 7 2 の床面よりも上方に位置して所定高さに配置された腰高窓とされている。

【 0 0 8 6 】

リビング 7 3 は、第一屋根部 8 の直下に位置し、その上部空間が第一屋根部 8 の近傍まで吹き抜けて勾配天井とされている。

【 0 0 8 7 】

ダイニング 7 4 及びキッチン 7 5 は、リビング 7 3 の北側に配置されている。キッチン 7 5 には、ペニンシュラ型のキッチン台 7 5 a が設置されている。ダイニング 7 4 にはダイニングテーブル 7 4 a が設置されている。

【 0 0 8 8 】

住宅本体 5 3 における 1 階の北側端部は、西側部分 5 3 a から東側部分 5 3 b に亘るバックヤードゾーンとなっている。バックヤードゾーンと、玄関 7 0 及び居室 7 2 との間には、上記の内壁 7 6 が設けられている。換言すれば、住宅本体 5 3 の 1 階は、内壁 7 6 によって仕切られた北側の領域が、バックヤードゾーンとされている。

内壁 7 6 には、玄関ホール部 7 0 b 側の出入口 7 6 a と、キッチン台 7 5 a と階段 7 7 との間に位置する出入口 7 6 b と、キッチン台 7 5 a の西側に位置する出入口 7 6 c とが形成されている。

【 0 0 8 9 】

そして、バックヤードゾーンは、上記のように、複数の非居室 7 8 , 7 9 , 8 0 , 8 1 を備えている。

非居室 7 8 は浴室であり、バックヤードゾーンのうち最も東側に配置されている。

非居室 7 9 はランドリールームであり、浴室である非居室 7 8 の西側に隣接して配置されている。

非居室 8 0 は洗面所であり、ランドリールームである非居室 7 9 の西側に隣接して配置されている。

非居室 8 1 はトイレ及び収納スペースであり、洗面所である非居室 8 0 の西側に隣接して配置されている。

複数の非居室 7 8 , 7 9 , 8 0 , 8 1 は、東西方向に並んで配置されており、内壁 7 6 に沿った箇所を、各非居室 7 8 , 7 9 , 8 0 , 8 1 間を行き来するための通路として利用できるようになっている。また、通路上には、建具が適宜設けられている。上記の出入口 7 6 a , 7 6 b , 7 6 c は、当該通路に面して設けられている。

【 0 0 9 0 】

続いて、階段 7 7 を上ると住宅本体 5 3 の 2 階がある。2 階の床は全て等しい高さ位置となっている。階段 7 7 を上った先には、まず、東西方向に伸びる第一廊下 9 0 が設けられている。また、この第一廊下 9 0 の西側端部と平面視において直交し、南北方向に伸びる第二廊下 9 1 が設けられている。また、第二廊下 9 1 は、階段 7 7 に沿って配置されている。

第一廊下 9 0 と第二廊下 9 1 は、互いに直交して配置されることによって略 L 字型に形成されている。

なお、第一廊下 9 0 の北側にはトイレ 9 2 が設けられている。

【 0 0 9 1 】

階段 7 7 及び第一廊下 9 0 の東側には、第一寝室 9 3 (第二部屋) が設けられている。第一廊下 9 0 の東側端部と第一寝室 9 3 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

この第一寝室 9 3 は、住人が日常的に過ごす場所であり、いわゆる主寝室として利用できるようになっている。

【 0 0 9 2 】

第一廊下 9 0 の西側には、第二寝室 9 4 が設けられている。第一廊下 9 0 の西側端部と第二寝室 9 4 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

この第二寝室 9 4 は、住人が日常的に過ごす場所であり、いわゆる寝室 (子供部屋) として利用できるようになっている。

【 0 0 9 3 】

第二廊下 9 1 における南側部の西側には、第二寝室 9 4 の南側に位置する第三寝室 9 5

10

20

30

40

50

が設けられている。第二廊下 9 1 と第三寝室 9 5 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

この第三寝室 9 5 は、住人が日常的に過ごす場所であり、いわゆる寝室（子供部屋）として利用できるようになっている。

第三寝室 9 5 は、第一屋根部 8 の直下に位置しており、1 階のリビング 7 3 の上部空間と南北に隣接して配置されている。そのため、第三寝室 9 5 の南側には、リビング 7 3 の上部空間に面する第二仕切壁 9 5 a が設けられている。

第二仕切壁 9 5 a には、第三寝室 9 5 と上部空間とを連通する開口部 9 5 b が形成されている。

【0094】

第二廊下 9 1 における南側端部の南側には、第三寝室 9 5 の東側に位置し、住人同士で共有する多目的スペース（マルチコモンズ）として利用される第一部屋 9 6 が設けられている。第二廊下 9 1 の南側端部と第一部屋 9 6 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

第一部屋 9 6 は、第一屋根部 8 の直下に位置しており、1 階のリビング 7 3 の上部空間と南北に隣接して配置されている。そのため、第一部屋 9 6 の南側には、リビング 7 3 の上部空間に面する第一仕切壁 9 6 a が設けられている。第一仕切壁 9 6 a は、平面視において第二外壁 5 5 と平行に配置されるとともに、第三外壁 5 6 と直交して配置されている。

第一仕切壁 9 6 a には、第一部屋 9 6 と上部空間とを連通する第一開口部 9 6 b が形成されている。

【0095】

第三寝室 9 5 の第二仕切壁 9 5 a と、第一部屋 9 6 の第一仕切壁 9 6 a は、同一直線上に配置されている。また、第二仕切壁 9 5 a に形成された開口部 9 5 b と、第一仕切壁 9 6 a に形成された第一開口部 9 6 b は、東西に並んで配置されている。

これら開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b から南側に向かって水平に視線を向けると、リビング 7 3 の勾配天井が視界に入ることとなる。また、開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b から南側に向かって斜め下に視線を向けると、リビング 7 3 と、第二外壁 5 5 に形成された第三開口部 5 5 a と、その第三開口部 5 5 a の屋外側にあるアウトドアリビング 6 1 とが視界に入ることとなる。さらに、開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b から南東側に向か

て斜め下に視線を向けると、リビング 7 3 と、第三外壁 5 6 に形成された第四開口部 5 6 a と、その第四開口部 5 6 a の屋外側（玄関アプローチ 5 1 E の一部）とが視界に入ることとなる。

第三寝室 9 5 及び第一部屋 9 6 は、机が設置されていて、しかも、2 階に設けられているため、テレワーク等を始めとする種々の作業を行うのに好適なスペースとなっている。そして、第三寝室 9 5 及び第一部屋 9 6 は、上記のように開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b から 1 階及び屋外空間が視界に入るようになっているので、住人は、第三寝室 9 5 及び第一部屋 9 6 で作業や執務を行いながら、開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b に視線を向けることで、当該開口部 9 5 b 及び第一開口部 9 6 b を通じて 1 階及び屋外空間の様子を窺うことが可能となる。

【0096】

第一部屋 9 6 の東側には、第一寝室 9 3 が設けられている。第一部屋 9 6 と第一寝室 9 3 との間には、建具付きの出入口が設けられている。

第一寝室 9 3 は、屋外空間に面する外壁 5 4（第一外壁 5 4）を有し、当該外壁 5 4 には、第一寝室 9 3 と屋外空間とを連通する開口部 5 4 a（第二開口部 5 4 a）が形成されている。換言すれば、第一寝室 9 3 は、住宅本体 5 3 における東側部分 5 3 b に設けられている。

なお、第二開口部 5 4 a は、下端部が、第一寝室 9 3 の床面よりも上方に位置する腰高窓とされている。

【0097】

10

20

30

40

50

第一寝室93の南側端部は、例えば洗濯物干しスペース、休憩スペース等として利用されるが、特に限定されるものではない。第一部屋96を、テレワーク等の作業スペースとして利用した住人は、第一寝室93の南側端部を休憩スペースとして利用し、屋外で遊ぶ子供の様子を確認したり、洗濯物干し作業を行ったりすることができる。

【0098】

第二開口部54aから南側に向かって水平に視線を向けると、道路が視界に入ることとなる。また、第二開口部54aから南側に向かって斜め下に視線を向けると、玄関アプローチ51Eが視界に入ることとなる。さらに、第二開口部54aは、平面視において第四開口部56aと直交して配置されていることから、第二開口部54aから南西側に視線を向けると、第四開口部56aを通じてリビング73が視界に入ることとなる。そのため、第一寝室93に居る住人は、第一寝室93で作業したり休憩したりしながら、第二開口部54aに視線を向けることで、当該第二開口部54aを通じて1階及び屋外空間の様子を窺うことが可能となる。

10

【0099】

本変形例によれば、傾斜屋根7における同一の屋根面7bを形成する第一屋根部8と第二屋根部9のうち、第一屋根部8の第一軒先部8aを、第二屋根部9の第二軒先部9aよりも長くすることができるので、その分だけ屋根7の面積を広くすることができる。これにより、例えば太陽電池アレイ10等の発電装置を設置可能な面積を広く確保できるので、環境性能の高い住まいの実現に貢献できる。

その上、リビング73は、第一屋根部8の直下に位置し、その上部空間が第一屋根部8の近傍まで吹き抜けて勾配天井とされているので、例えば天井高が総二階分の高さに設定されるとともに水平な天井の場合に比して気積を減らすことが可能となる。これにより、リビング73における空調効率を向上させることができるので、環境性能の高い住まいの実現に貢献できる。

20

また、第一屋根部8の直下に位置する第一部屋96は、リビング73の上部空間に面する仕切壁96aを有し、当該仕切壁96aには、第一部屋96と上部空間とを連通する第一開口部96bが形成されているので、第一部屋96とリビング73との間で視線が通ることになる。さらに、第二屋根部9の直下に位置する第一寝室93は、屋外空間に面する第一外壁54を有し、当該第一外壁54には、第一寝室93と屋外空間とを連通する第二開口部54aが形成されているので、第一寝室93と屋外空間との間で視線が通ることになる。そのため、上階に居る住人は、第一部屋96又は第一寝室93で過ごしつつ、第一部屋96又は第一寝室93からリビング73又は屋外空間の様子を窺うことができる。下階に居る住人は、リビング73又は屋外空間で過ごしつつ、リビング73又は屋外空間から第一部屋96又は第一寝室93の様子を窺うことができる。これにより、上下階間で家族の視線が通るような空間的なつながりを確保することができる。

30

【0100】

〔変形例2〕

上記の実施形態における住宅2は2階建てとされているが、本変形例の住宅は3階建てとされている。その場合、住宅の2階部分におけるルーフバルコニーが、アウトドアリビング11として利用される。また、遮蔽壁13によって外部からの視線が遮られる庭部12は、アウトドアリビング11と同一階にあってもよいし、地上にあってもよい。

40

【0101】

本変形例によれば、住宅2が3階建て以上であったとしても、上記の実施形態と同様の効果を発揮する。

【符号の説明】

【0102】

- 1 敷地
- 2 住宅
- 3 住宅本体
- 3a 西側部分

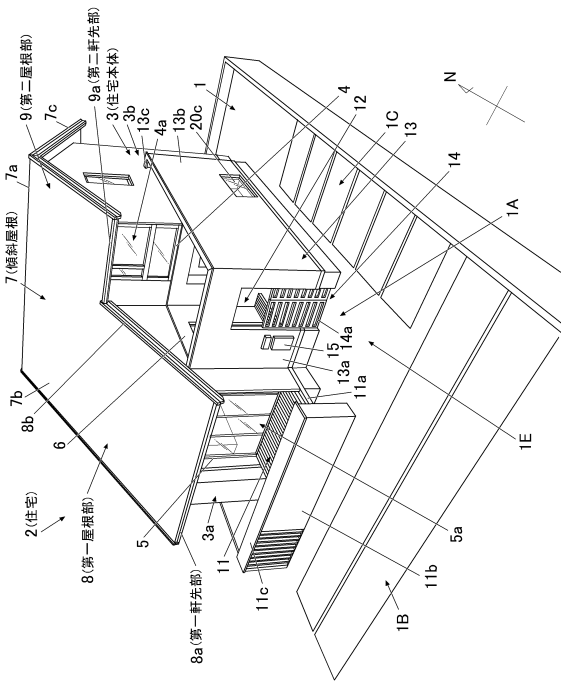
50

3 b	東側部分	
4	第一外壁	
4 a	第二開口部	
5	第二外壁	
5 a	第三開口部	
6	第三外壁	
6 a	第四開口部	
7	傾斜屋根	
7 b	南側屋根面	
8	第一屋根部	10
8 a	第一軒先部	
9	第二屋根部	
9 a	第二軒先部	
1 1	アウトドアリビング	
1 1 a	床部	
1 1 b	手摺り	
1 1 c	カウンター板	
1 2	庭部	
1 2 a	縁台	
1 3	遮蔽壁	20
1 3 a	第一遮蔽壁	
1 4	門	
1 4 a	門扉	
1 5	宅配ボックス	
1 3 b	第二遮蔽壁	
1 3 c	第三遮蔽壁	
2 2	居室	
2 3	リビングルーム	
2 3 a	勾配天井	
2 4	ダイニングルーム	30
2 5	キッチンルーム	
2 6	内壁	
3 1	小部屋	
3 1 a	腰掛部	
4 6	第一部屋	
4 6 a	仕切壁	
4 6 b	第一開口部	
4 7	第二部屋	

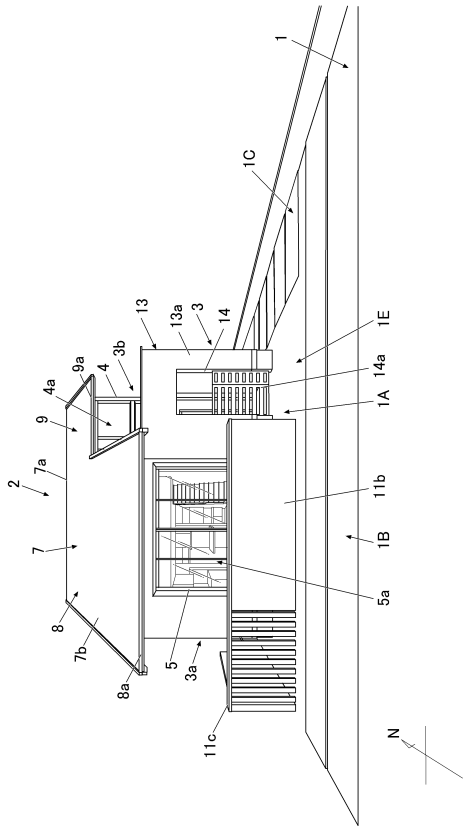
40

50

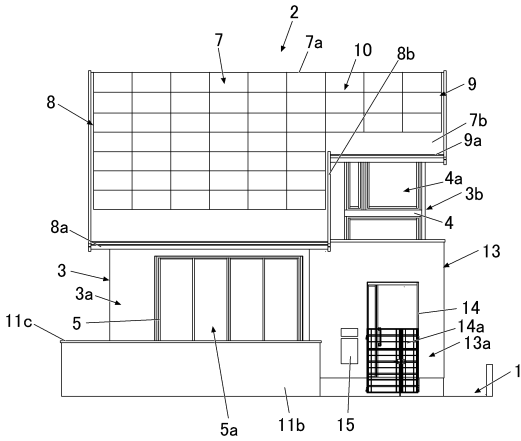
【図面】
【図 1】



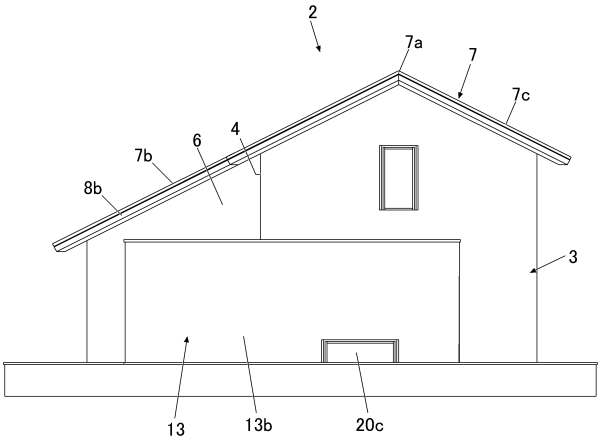
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

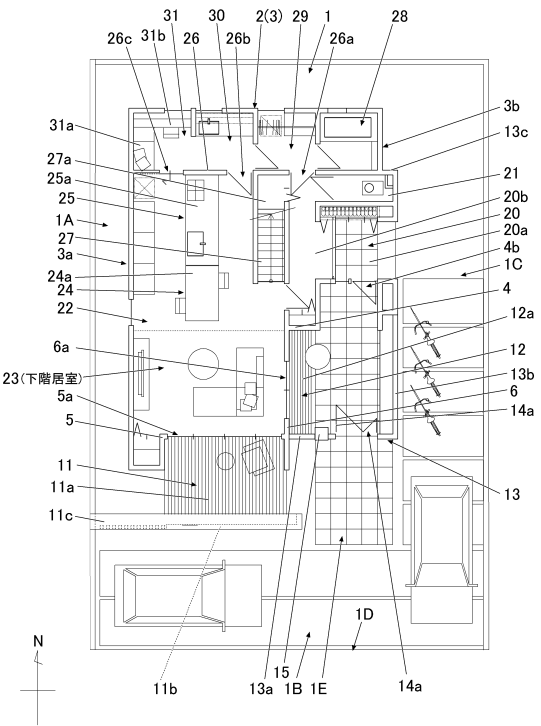
20

30

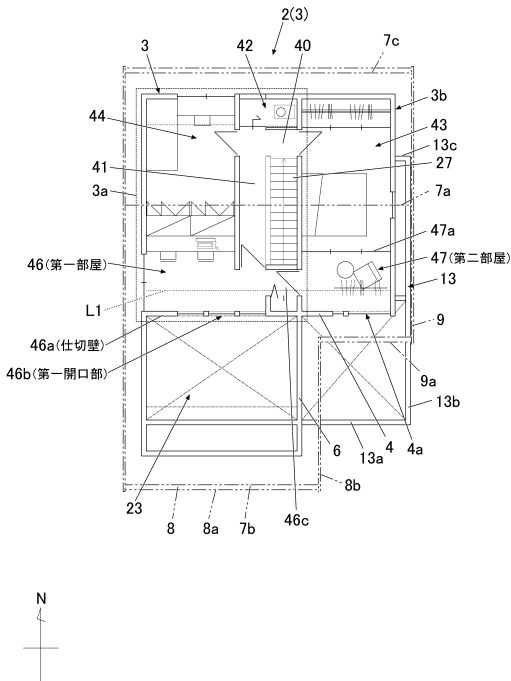
40

50

【図 5】



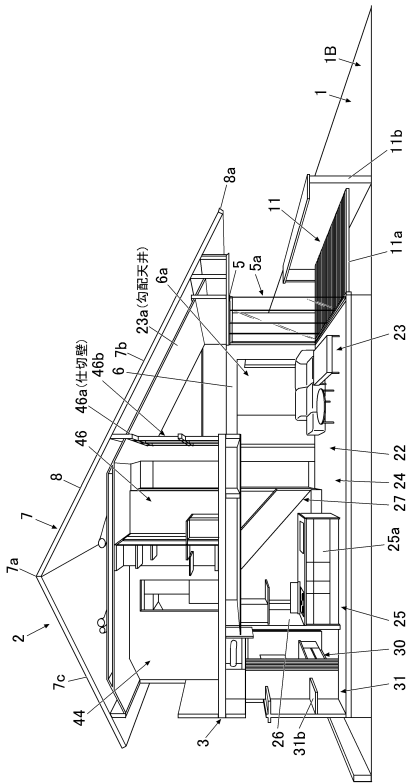
【図 6】



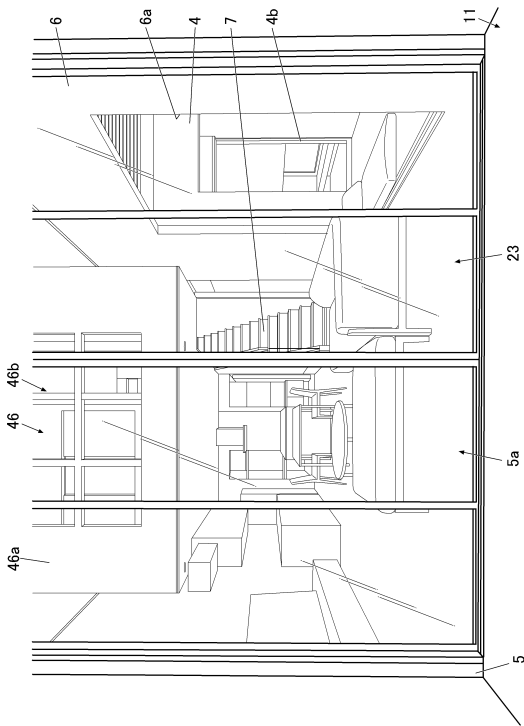
10

20

【図 7】



【図 8】

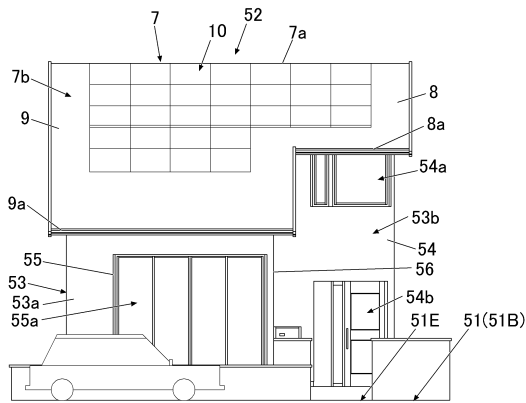


30

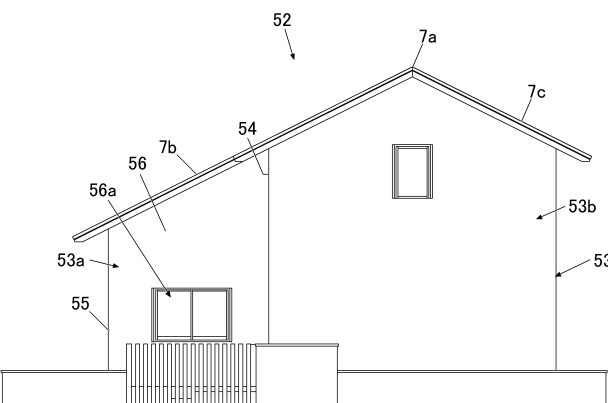
40

50

【図 9】

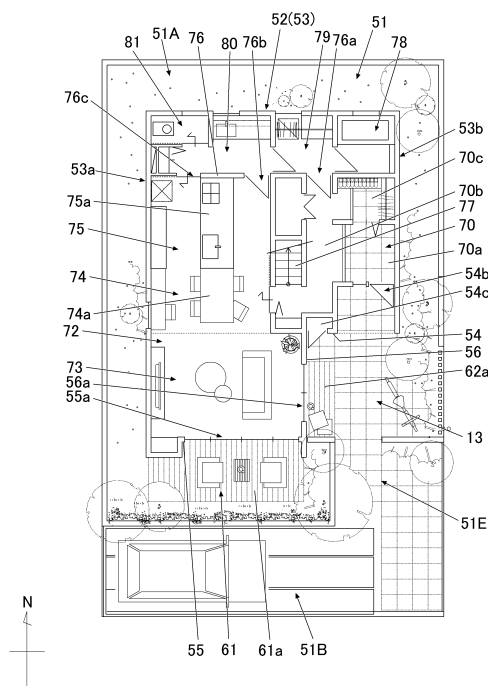


【図 10】

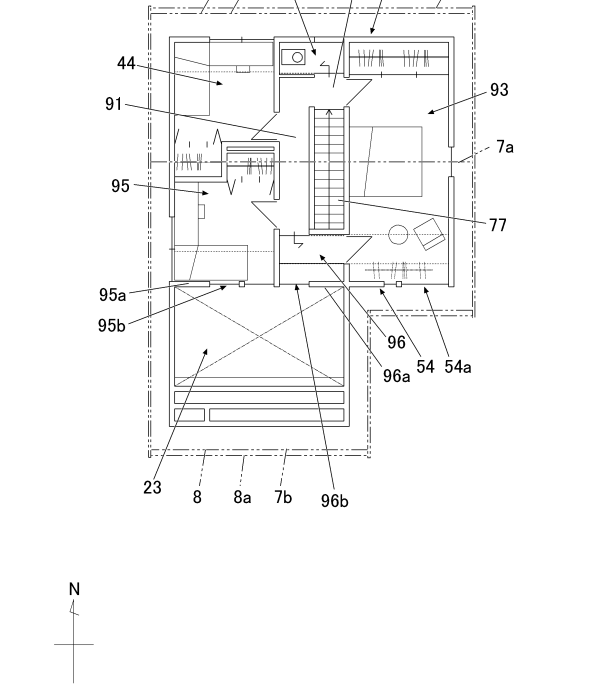


10

【図 11】



【図 12】



20

30

40

50